

こどもの居場所づくり ハンドブック 令和7年度版



那覇市社会福祉協議会

こどもと地域をつなぐサポートセンター糸



はじめに・・・

こどもの居場所とは

「こどもの居場所」とは、家でも学校でもない、こども自身が安全で安心して自分らしく過ごすことができる新たな居場所のことを言います。

安心・安全を確保するためなどの最低限のルールを除き、厳格な決まりごとではなく、居場所運営者のさまざまなコンセプトの下、学習支援を行う居場所や食事提供を行う居場所、遊びやキャリア教育を行う居場所など、多種多様に展開されています。

(貧困世帯のこども支援が目的ではなく、地域に開かれたこどもの居場所として存在します。)



なはこどもの居場所ネットワークでは、こどもと大人、地域の方々とのつながりを大切にしたいと考え、地域と連携し地域に開かれた居場所づくりに取り組んでいます。多様な活動を通して、こどもたちの**自己肯定感**を育み、**こどもの権利**が守られる地域を目指しています。



現在(令和7年)なはこどもの居場所ネットワーク加入のこどもの居場所は小禄地区に11か所、首里地区に11か所、那覇地区に19か所、真和志地区に28か所開催されています。

しかし、まだまだ地域のニーズとしてこどもの居場所はもとめられています。

そこで那覇市社会福祉協議会、こどもと地域ををつなぐサポートセンター系は今後、新しくこどもの居場所を立ち上げようとする方のために

『こどもの居場所づくりガイドブック』を作成いたしました。

こどもの居場所活動準備の流れ

① 〈見学〉に行こう

地域や活動内容が近い居場所さんを、サポートセンター系でご紹介することができます。

公開されている電話番号から直接居場所にご連絡するのも良いです。

居場所活動の目的や内容はそれぞれの団体によってさまざまで、

たくさんの魅力や良さがあります。

自分たちのやりたいこと、目的に近い居場所さんを見学することで、

具体的なイメージが持ちやすくなるほか、活動のヒントになります。



糸 HP の QR

見学に行ったとき、運営している方に直接お話を聞いてみるのも参考になります。

〔参考質問〕

- ・活動を始めたキッカケ
- ・始める前に想像していたこと
- ・実際にやってみて気づいたこと
- ・活動を継続するコツ
- ・参加しているこどもたちの様子
- ・開催にあたって気を付けていること など

〔見学の時に注意すること〕

★見学を行う際は事前に運営団体に連絡し、見学の日程調整を行いましょう。

★準備・運営で忙しくされている場合もあります。参加している方にとって

大切な居場所なので、見学にあたっては配慮が必要です。

★写真撮影を希望される場合は、事前に運営者に承諾をいただき、

できる限り利用者が写り込まないようご配慮ください。

②活動の〈目的〉を決めよう

はじめに『何故、こどもの居場所をやりたいのか』、

『何のために、誰のために、どのようなこと』を行うのかなど

活動の目的や方向性を決めましょう。

ボランティア活動になりますので、活動を行うにあたっての〈目的〉を明確にしておくことが、

活動を継続するための活力となります。

こどもの居場所の魅力の1つは「多様性」です。

こどもたちにとってプラスになる、理想とすることどもの居場所をイメージしてみましょう。

③活動の〈内容〉を決めよう

立ち上げイメージシートを記入する※冊子最後にあります。

活動内容の詳細を具体的に考えていくことが大切です。

無理なく継続できるよう、少しずつ計画を進めましょう。

活動を進めながら内容を変更していくことも可能です。

[illegible]

遊び場の提供



學習支援



食事の支援

④ 〈会場〉を探そう

無理なく続けることができる会場を探しましょう。

家賃が発生しない（又は低額）の場所が望ましいです。

設立にあたって、設立や運営資金は基本的に自己資金となります。

設立後に助成金などを受けることができる可能性がありますが、

家賃や人件費をカバーする助成金はあまりありません。

しっかりと計画的に場所を決めましょう。

～こんな場所が活用されています～

・ 自宅 ・ 公民館 ・ 自営店舗 ・ 地域交流スペース など

～会場を決めるポイント～

- ・ こどもが安全に過ごせる場所か
- ・ 活動に十分な広さや設備があるか（遊び、学習、調理環境など）
- ・ 駐車場、荷物の搬入、交通量など
- ・ トラブル（を想定した）時の話し合いは十分にできるか



助成金情報

※サポートセンター系ではこどもの居場所で活用できる

公募期間中の助成金情報を掲載しています。



<https://docs.google.com/document/d/1IwyKMUoUR5BpIAzkv2KrxWQ6XMID4EK5RC1fk9bBjY/edit?tab=t.0>

⑤ 〈仲間〉を作ろう

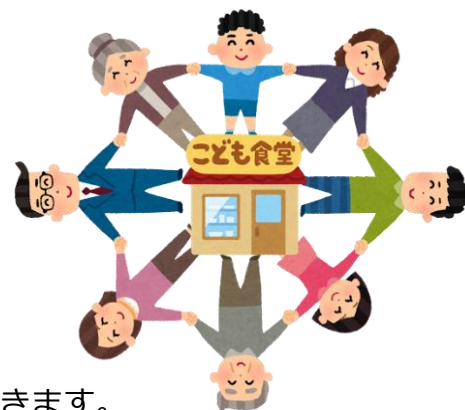
・ 中心メンバー（家族、友人知人）

こどもの居場所は、1人で運営・活動するのはとても難しいです。

思いに共感して協力してくれる家族や友人に声をかけて仲間を集めましょう。

仲間ができれば、思い描いている活動を共有して、

実現に向けて知恵や意見を出し合っていきましょう。



・ ボランティア

居場所活動のお手伝いをボランティアさんをお願いすることもできます。

社協などへボランティアマッチングを依頼することもできます。

ただ、ボランティアさんはあくまで「補助」ということを忘れてはいけません。

「ボランティアさんがいないとできない活動＝無理な活動」なので、

ボランティア頼みにせずに、中心メンバーだけで持続できる活動を考えましょう。

▼那覇市社会福祉協議会ボランティアセンター▼

<http://www.nahasyakyo.org/service/volunteer/borannthiasennta/>



▼那覇市人材データバンク(那覇市の市民活動支援センター)▼

<https://onl.bz/juUbiBi>



▼大学コンソーシアム沖縄(大学生ボランティアのコーディネート)▼

※ボランティア募集の団体登録をするためには市町村からの推薦が必要になります。

<https://www.consortium-okinawa.or.jp/kg-vc/>



⑥サポートセンター系に〈相談〉に行こう

- ・①～⑤がある程度固まったら、糸で相談も可能です

(必ず相談しないといけないわけではありません)

- ・電話にて相談予約。担当者が不在の場合も多いので、事前にお問合せください。
- ・作成した『立ち上げシート』を持参し相談(目安・30分～1時間程度)

こどもと地域をつなぐサポートセンター糸

沖縄県那覇市金城3丁目5番地の4(那覇市総合福祉センター2F)

TEL : 098-857-7766



⑦保健所に相談に行こう

那覇市ではこどもの居場所開設にあたって「営業許可」は必要ありません。

しかし、食べ物を扱ったり、不特定多数の人が出入りしたりするため、

保健所への事前相談を求めています。

居場所会場における衛生面のリスクや課題を洗い出し、どう対応するかを考えましょう。

また、食品衛生講習会の受講、「食品衛生責任者」の取得も推奨しています。

保険加入も大事ですが、しっかりと勉強し、衛生面の基本を徹底しましょう。

⑧保険に加入しよう

居場所の運営は、こどもたちが安全に安心して過ごすためにも、配慮が非常に重要です。

ボランティア活動中の事故によるケガ等を保障する保険がありますので、

独自で探るか、活動を始める前に糸までご相談ください。

社協ではボランティア活動保険や、行事保険に申し込めます。

ボランティア活動保険とは

①基本プラン・・・1人あたりの年間の保険料 350 円

ボランティアがボランティア活動中の急激かつ偶然な外来の事故により死傷された場合や

偶然な事故により他人にケガを負わせたり、他人の物を壊した等により法律上の損害賠償責任を

負わされた場合に保険金を補償するものです。（後遺障害もフルカバーなので安心です）

◆ボランティア自身の食中毒や特定感染症、熱中症も補償の対象になります。

②天災地震プラン・・・1人あたりの年間の保険料 500 円

◆天災・地震補償プランでは熱中症、地震、津波、台風も補償の対象になります。

③特定感染症重点プラン・・・1人あたりの年間の保険料 550 円

◆ボランティア活動中の感染を初日から保障します。

ボランティア行事用保険とは

①宿泊を伴わないプラン・・・28 円～248 円（最低保証 560 円～）

②宿泊を伴うプラン・・・241 円～

地域福祉活動におけるボランティア活動のさまざまな行事における主催者や参加者のケガ

主催者の賠償責任（主催者責任）を補償します。

※ ボランティア活動保険・行事用保険ともにボランティア登録の上で利用できます。

こどもの居場所におけるこどもたちの安全確保について

※中心メンバーで（定期的に）少しずつ考えてもらいたい事柄

★【通常活動やイベント時の事故・けがの防止】

こども達の遊びや生活の場面からあらかじめ予想される危険は取り除いておくことが大切です。

準備時間等を利用して、会場内外の点検や整備を行い、万が一事故や怪我が起きた場合の対応についてもしっかりと考えておく必要があります。

★【食物アレルギー対応】

アレルギーは時に命に関わります。アレルギーを持っているこどもには

事前に申告してもらおう等、アレルギーの有無については必ず確認が必要です。

アレルギー対応が難しい場合には、対応できないことを事前に周知しておくことも大切です。

★【衛生管理】

食事を提供する場合は、食中毒等が発生しないよう十分な注意が必要です。

★【災害時の対応】

大雨などの注意報発令時は開催するのか、活動中に地震が来た時にはどこに避難するのか、

そもそも保護者と連絡がとれるのか、など災害時の対応も考え、備える必要があります。

★【個人情報の管理】

万が一に備え、保護者と連絡がとれるよう受付簿を作成することをお勧めしています。

また、ボランティアさんが自分の SNS でうっかり利用者が写り込んだ写真をアップしてしまった

り、利用者とスタッフが個人的に連絡先を交換することで思わぬトラブルに発展したり、そ

ういったことを避けるために個人情報の扱い方をきちんと決めておく必要があります。

⑨オープン

- ・チラシや SNS などでの告知
- ・友人知人を招待
- ・会場設営
- ・提供内容（食事など）の準備
- ・受付簿の準備
- ・領収書などの保管ファイル



今までのステップをもとに、活動してみましょう。

実際活動を行う中で、みえてくるアイデアがあるはずです。

居場所の協力者や活動に参加しているこどもたちの意見もとりにいれながら、

さらに素敵な居場所にしていきましょう。

また、居場所にきたこどもたちやボランティアさんなどの受付簿を準備しましょう。

どなたが来所したかを把握することで次回にどれくらいの人があるかの予測をしたり

事故などが起きた際に来所者の確認や連絡がとりやすくなります。

終了後に振り返り、頻度や活動内容に無理がないかを確認しましょう。

また、定期的に活動を振り返る機会をつくり、中心メンバーやボランティアと

意見交換するのもおすすめです。

そして開催にあたってかかった物品などの領収書や受付簿などは

しっかりと保管しておきましょう。

今後、助成金などを受ける際に活動実績として必要になる場合があります。

（SNS や HP、ブログなどで活動状況を記録しておくこともおすすめします。）

⑩地域に知ってもらおう



地域の方に活動を始めることを周知し、参加者を呼びかけてみましょう。

来てほしい人に 情報が届くように、様々なツールを用いるなどの工夫が必要です。

参加対象者へのお知らせだけではなく、地域全体に周知を図ることで、

地域全体で支える活動として理解や協力が得られることにつながります。

□**地域の集まりで PR する。 地元のスーパーや地域の掲示板で案内する**

□**ホームページや SNS などネットを活用する**

□**小学校にチラシを配布してもらう**

こどもの居場所を新しく立ち上げ、継続していくためには、

地域の人・団体とつながることが必要不可欠です。

つながることでお互いの出来ることを出し合い、助け合いながら、

地域全体がこどもにとっての居場所となるよう活動していきましょう。

学校関係やこども会、まちづくり協議会や民生委員児童委員など声をかけやすいところから
声かけをしてみると良いかもしれません。

より多くのこどもたちに居場所を認知してもらえるよう、地域に認めてもらうことも大切です。

地域をどんどん巻き込んでいくと、つながりの輪が大きくなっていき、
協力してくれる人も増えてきます。積極的に交流しましょう。

⑪なは子どもの居場所ネットワークに加入 ※任意

那覇市内で活動するこどもの居場所は、趣旨や目的に賛同でき、衛生面と保険への対応などの一定の条件を満たしていれば、居場所が加盟する「なはこどもの居場所ネットワーク」に入ることができます。

「こどもは宝」「地域の子を地域で育てよう」と熱い思いを持った居場所の運営者とも出会える機会にもなるので、よかったらご参加ください。

「こどもと地域をつなぐサポートセンター系」が事務局を担っています。

[加入時の手続き]

- ・ 要綱の確認（趣旨に賛同できるかの確認）
- ・ 申込書の記入提出
- ・ 居場所の会場や活動内容の確認

[加入したら受けることができる支援など]

- ・ 物資提供の案内や配布
- ・ 助成金等の案内
- ・ 居場所スタッフ同士の交流・情報交換。居場所に役立つ研修参加
- ・ こども食堂保険（団体保険）があり、加入するかどうか選ぶことができます。



☆なはこどもの居場所ネットワーク

こどもと地域をつなぐサポートセンター系 website ☆

那覇市社会福祉協議会「こどもと地域をつなぐサポートセンター系」では、こどもの居場所の立ち上げや継続について支援を行っています。

また、こどもの居場所を運営する団体同士のつながりも大切にし、

情報交換ができる場としてネットワーク交流会や研修会など開催しております。

こどもの居場所への支援を通して、その先にいるこどもたちにプラスとなる環境づくりを

こどもの福祉に関わる様々な機関と連携し、目指しています。

分からないこと、困ったことがありましたら、お気軽にご相談ください。



こどもの居場所活動をするにあたって加入や登録をおすすめする団体です

■沖縄県子どもの居場所ネットワーク

(沖縄県社会福祉協議会)

<https://onl.bz/X4amwHr>



■おきなわこども未来ランチサポート

(県内の子どもの居場所向け物流ネットワーク)

<https://www.lun-sup.com/>

HP はこちら→



★登録申請フォーム



<https://forms.gle/j8JbjB7XXwxv2t6k8>

■全国ロジハブ拠点ネットワーク（全国食支援活動協力会）

<https://mow.jp/mow-ls/index.html>



■認定 NPO 法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ

<https://musubie.org/>



【おまけ】

こどもの居場所活動をしていくなかでこどもたちについて相談したいときは？

もしかすると…のときにはココに相談

活動を楽しみに来るこどもたちの中には、色々な困難を抱えている子もいるかもしれません。こども自身も自分がいま困っている状況にあるのかどうか、わからないこともあるでしょう。こどもたちの気になる行動に気づいたら、まわりの大人たちがしっかり見守ってあげることが大切です。

例えばこんな場面…

- ・大人の顔色ばかり見る。
- ・やたらと物を壊す。
- ・いつも同じ服を着ている。
- ・スタッフを独り占めする。
- ・一気に掻き込んで食べる。
- ・何度もおかわりする。



こどもたちの様子で気になることがあったらなど

何気ない会話や行動に子どもたちの悩みや不安が隠れていることもあります。

もし、悩みや不安があるようなら、まず受け止めてあげてください。

スタッフ同士で共有し、必要であれば専門機関につなぐことも考えましょう。

●小児救急電話相談 #8000(又は 098-888-5230) 平日 19:00～翌朝 8:00 土日祝日 24H 対応

●こども家庭センターなは ～子育てに関する相談～ 【電話】 098-861-5026

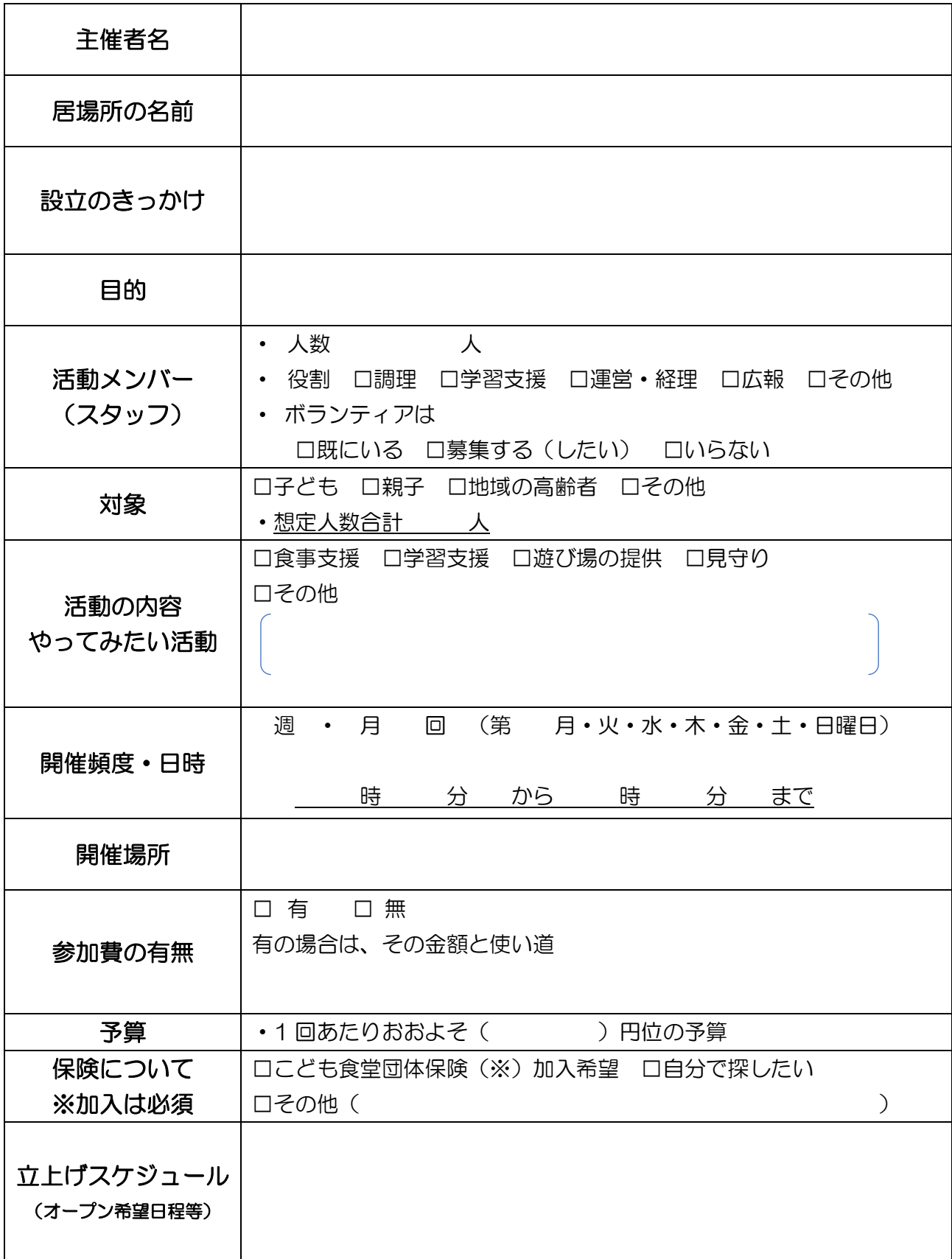
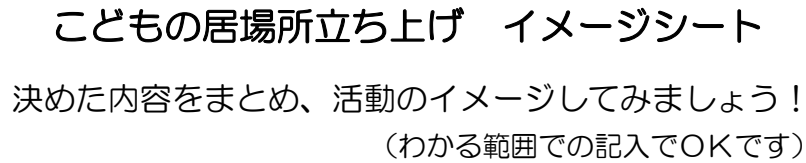
●児童相談所相談専用ダイヤル(全国共通フリーダイヤル) 【電話】 0120-189-783
(虐待の相談以外にもヤングケアラーなど子どもの福祉に関するさまざまな相談の受け付け)

●こども虐待ホットライン(沖縄県中央児童相談所) 【電話】 098-886-2900

●子どもの虐待相談 月～金 8:30～17:15 【電話】 098-862-0593

●24 時間子ども SOS ダイヤル (子どもむけ) 【電話】 0120-0-78310

●チャイルドライン (子どもむけカウンセリング) 【電話】 0120-99-7777



(※) こども食堂団体保険についての詳細については、担当よりご説明いたします。

★なはこどもの居場所ネットワーク加入もよろしくお願いいたします★